

KEIWA COLLEGE REPORT

第 49 号

January 2007

敬和カレッジ・レポート

発行/敬和学園大学後援会
敬和学園大学広報委員会

KEIWA COLLEGE REPORT

January 2007

発行所/敬和学園大学 〒957-8585 新潟県新潟市東区1270番地
印刷所/オリオン印刷株式会社 〒950-0963 新潟県新潟市南區1丁目19番地1号 TEL.025-283-2151



第16回敬和祭

CLOSE UP

「ギリシア悲劇と私」 英語文化コミュニケーション学科 金山 愛子

第16回敬和祭・ふれあいバラエティのご報告

社会福祉士国家試験受験資格課程について

学生の心のケアについて/企業との就職懇談会のご報告

オープン・カレッジのご報告/イングリッシュ・セミナーのご報告

敬和学園大学同窓会リレー・エッセイ①

2007

KEIWA チャレンジ学生ファイル①⑥



共生社会学科 3年

熊田 惇平

『つねに目標に向かって』

完成した陶器とともに

私は敬和学園大学に入って、心に響く講義やボランティア活動により、感動の毎日を送っています。そういった日々の中で、「自分には何もできない」と思い込んでいた私に、「やればできるんだ」という大きな可能性を与えてくれた出会いがありました。

1つ目は陶芸との出会いです。陶芸部に入部したての3ヶ月目の敬和祭で、陶芸教室が開催されました。最初は、技術不足に加え、人付き合いが苦手なこともあり、「できるわけがない」と思いました。そして、来客者に満足に教えることもできず、不愉快な思いをさせてしまいました。それでも慣れるにつれ、逆に自分が楽しんでいることに気づきました。それをきっかけに、気づかなかった自分の長所や短所がわかり、今では、陶芸部の部長として活動を発展させ、部員も増やすことができました。

2つ目はパソコン教室での出会いです。パソコンが使える当たり前といわれる中、苦手克服のためにと、夏休みに大学のパソコン資格(MOS)取得講座に参加しました。そこで卒業生で講師の長谷川さんと出会い、話をしているうちに自分もパソコンをもっと使いこなしたいと思うようになりました。その後も、教室に通う費用をアルバイトで稼ぎながら、さらに上の資格取得を目指して日々勉強しています。

私は今、大学での様々な活動の中で、「共生社会の実現のために、まず自分は何をすべきか」を模索しています。それは、私の人生を変えてくれた大学に対する恩返しでもあり、自分の求める生き方の実現のためにもやらねばならないことです。たくさんの友人や先生方、職員のみなさんをはじめ、自分を支えてくれているたくさんの出会いに感謝します。



敬和学園大学
www.keiwa-c.ac.jp



ケータイ付

TEL.0254-26-3636



クリスマス・キャロリング（新発田教会にて）

敬和学園大学は、キリスト教主義大学として、例年12月に行われる一連のクリスマス行事を、その年最後の大きなイベントに位置づけています。今年度は、12月22日（金）に燭火礼拝とクリスマス・キャロリング、そしてクリスマス・パーティーを行いました。

小雨の降る中、新しくなった県立新発田病院等を訪問して行われた「クリスマス・キャロリング」に引き続き、夕方からの「クリスマス・パーティー」は、学生たちの熱気で熱くなった大学のオレンジ・ホールを会場に行われました。たくさんの方々が主体となって企画した歌や踊り、ゲームに、多くの学生と教職員が加わって大いに盛り上がり、2006年最後の行事を締めくくりました。

「ギリシア悲劇と私」

英語文化コミュニケーション学科 金山 愛子



です。留学一年目に履修した「ギリシア神話」という授業は私にとって新しい発見の連続でしたが、担当の先生がまた素敵でした。レベッカ・ヘイグという若い先生で、彼女がキャンパスに現れるときは、いつも二頭の黒い大きなラブラドル犬を従えていて、女神アルテミスさながらでした。彼女が「ギリシア語文法」を教えていたので、日本でコイネー（新約聖書が書かれたギリシア語）をかじっていた私は、それほど抵抗もなく、ギリシア語文法を履修しました。それがそもそもの始まりです。

●七行に二時間！

昨年秋に、「ギリシア悲劇を学ぶ」（にいがたグリム主催）という全六回の講座を持たせていただきました。毎回五十名程の熱心な受講生の方々と共に、ギリシア悲劇について理解を深められたことを感謝しています。この講座をきっかけに、ギリシア悲劇の魅力について改めて考えてみました。

●なぜギリシア悲劇？

私がギリシア悲劇を学び始めたきっかけの一つは、幼いころ、親や兄たちが新約聖書をギリシア語で暗記したなどと話しているのを耳にして、ギリシア語に対して淡い憧れがあったことです。もう一つは、留学先のアマーフト大学での先生方との出会い

次の学期は別の先生による『イーリアス』を読む授業でした。なんと、最初の七行をギリシア語から英語に訳すのに二時間かかりました。予習にかかった時間を聞かれたときに、すでにギリシア語の素養があったイタリヤ人留学生が、「三十分」と言ったので、私と別の学生はお互い不機嫌な顔を見合わせたものです。次回から宿題は倍になるのですが、それでもかかる時間は同じ二時間程度だったのが今でも不思議です。

ホメロスの叙事詩の後は、いよいよギリシア悲劇です。ある授業で先生が、「ギリシア悲劇は、仮面をかぶって演じられたんだ。どんな雰囲気か知るために、今度みんな

もくじ

CLOSE UP「ギリシア悲劇と私」	9	サークル紹介 チアリーダー部	9
第16回敬和祭のご報告	4	2006年度オープン・カレッジのご報告	10
ミュージック・フェスティバル	4	高校生向けイングリッシュ・セミナー	11
外国語スピーチ・コンテスト	5	2007年度入試のご案内	11
ふれあいバラエティのご報告	6	新発田学研究センター開設	12
社会福祉士国家試験受験資格課程について	7	同窓会リレー・エッセイ 米山光紀	12
学生の心のケアについて	8	学事予告／寄付者ご芳名	12
1・2年生保護者との懇談会のご報告	8	キャンパス日誌	13
企業との就職懇談会のご報告	9		

<表紙写真>「第16回 敬和祭」
おいしいメニューとあふれる笑顔 (p.4)

なで仮面をかぶって授業をやるう」と言いだしました。私はひよつとこのお面をかぶり、他のみんなも先生も、顔に包帯を巻いたり、変な格好で来ました。その日、ことあるうに教室を間違えて入ってきた学生がいて、我々の姿を見るなり、目が点になって出て行ったのを思い出します。仮面を忘れてきた女子学生が、「仮面をつけた人の中でひとり素顔でいると、自分がとても傷つきやすい存在に感じる」と悲鳴をあげていました。確かに私もお面をかぶっただけで、急に大胆になれるように感じたものです。

本来の専攻だった英文学の授業では、「詩人はなぜあの言葉ではなく、この言葉を選んだのか」という議論が始まると、ついていけないと感じたというのも正直なところでした。ギリシア悲劇の繰り広げる世界、人間理解に漠然とした魅力を感じ、ギリシア語ならスタートラインはそれほど違わないかもしれないと思い、大学院では西洋古典学を専攻することにしました。

ラテン語も必要なので、日本に帰った夏休みに、ベルクソンの『創造的進化』を訳された故真方敬道先生から集中的に文法を教えていただきました。その後進んだペンシルバニア大学の一年間集中コースで、ラテン語の先生が、「語学はどれだけ文法に時間をかけるかではなく、その後どれだけ多くを読むかだ」と言っていて、私の拙いラテン語の読解につきあい、訳文を書いたノートを丁寧に添削してくださいました。

私が進んだプリンマー大学大学院での授業は、夢の中でもギリシア語を読むほどハ

ードなものでした。英語に比べてギリシア語なら、そんなに遅れていないのではないかとこの私の目論見は見事にはずれ、ほとんどの院生が高校時代からすでに古典語を読んでいたということがわかりました。がんばる以外にない私にとつての苦行は、サイト・トランスレーション（授業外で、初めて見る箇所をいきなり訳すこと）でした。授業で扱う範囲については、寝る間も惜しんで周到に準備していったのですが、自分の語彙力のなさに顔から火が出るような思いを何度も味わいました。英語が上達しないと嘆く学生さんがいますが、このような荒療治も功を奏するかもしれませんね。

●トロイア戦争とその後

ギリシア悲劇の何が魅力的なのか、立ち止まって考えることがありませんでしたが、今回の講座で思い至ったような気がします。講座で扱ったのは、イギリスの脚本家が悲劇詩人アイスキュロスの「オレスティア」



アマースト大学留学中の筆者

三部作を骨子として、十本の叙事詩や悲劇作品を集めてアレンジし、『グリークス』（ギリシア人）という壮大な一つのドラマにまとめたものです。ギリシアが美女ヘレネ奪還のためにトロイアを攻撃したトロイア戦争を契機に、ギリシアの総大将アガメムノン王家を流血の悲劇へと巻き込んだ物語がテーマです。二〇〇〇年九月には蜷川幸雄演出で、九時間にわたって上演されました。

トロイア攻略のために、アガメムノンが女神アルテミスの要求を呑んで娘のイビゲネイアを生贄に供したことを恨んだ妻クリユタイムネストラが、十年の後に凱旋した夫を愛人と共謀して殺害します。神の命を受けて、その息子オレステスが母殺しを強行した結果、復讐の女神たちに責め苛まれるという筋です。このような出来事は現代人には、あまりに突飛で非現実的に映るかもしれません。しかしそうではないのです。

トロイア攻略のためには、愛する娘を生贄に捧げなければならぬという選択を迫られたアガメムノンが、総大将としての立場と父親の立場の間で逡巡する苦悩。お腹を痛めて生んだ娘を夫によって殺された妻の怒りと無念。胸をはだけて命乞いをする我が母に刃を向けざるを得ない息子の苦しみ。これらはすべて現代の私たちの共感を呼びます。特に悲劇詩人エウリピデスの作品では、神々は何を思っているのか、神とは何者か、と問いつつ苦悶する人間の姿が、現代の人間と重なるように思われます。岩波書店から出た『ギリシア悲劇全集』の帯には「余りに人間的な、余りに現代的な」



アテナイのディオニュソス劇場

とありましたが、このような悲劇がアテナイ（現在のアテネ）で競演されていたのは紀元前五世紀のこととは信じ難いほど、私たちの胸に迫ってくるのです。

敬和学園大学の開学当初に一般教育の主任を務められたギリシア史専門の故安藤弘先生が、なぜギリシアを専門に選んだかというお話をされた後で、「でも生地丸出しで時々いやになるけど」と言っていて笑われたことを思い出します。現代の社会はすっかり洗練されてしまつて、人間の心の内奥に潜む思いや、爆発的な怒りや苦悩というものまでできるだけ覆い隠し、そこから眼を背けがちです。しかし、一般市民の参加できる宗教的行事の一環として演じられたギリシア悲劇は、趣味の本として書棚でほこりかぶつてしまつことに抵抗するかのように、人々に生きるとはどういうことかを

根源から問い続けているように思います。

本学の授業でもこの作品を読みました。

「人間も神々も心に何があるかと耐えていかななくてはならないと思う。そしてそれを背負いつつ、どう生きるか、どう生き続けるかが、私たちの試練なのではないだろうか」、「それぞれの人生にもがき苦しむ姿は、罪びとの優劣をあいまいにさせる」、「見習うとするなら、すべてが起こった後でも残った希望をかき集め、静かに過去を受け入れ、たくましく生きていこうとするアンドロマケだろうか」というようなコメントを、二十歳前後の学生が書くまでに成長してくれるのを見届けるのは嬉しいことです。

●二つの力のせめぎ合い

ギリシア悲劇の特徴として、古い神々と新しい神々、愛と憎しみなどの相反する力



右：BC750年頃の幾何学模様のアンフォラ（国立考古学博物館）
左：BC15世紀のタコの模様のフラスコ（ヘラクレイオン美術館）

や主張の衝突が挙げられます。演劇の神デオニユソスも人間からと神からと二度生まれたといい特徴があり、創造者であるとともに破壊者でもあります。ニーチェはデオニユソスの微笑から生まれたのが神々で、その涙から生まれたのが人間であるという伝説を紹介しています。ギリシア悲劇はそもそも大ディオニユシア祭という、この神を祀った祭り、ディオニユソス劇場で演じられたものでした。

アマースト大学のバウンシー学長は、ギリシア語の「一方、他方」という修辞表現を紹介し、常に物事の両面を見て、バランスのとれた思考をすることを学生たちに求めました。写真の幾何学模様とタコの二つの壺絵が表しているように、ギリシア人は数学的な秩序や理性と、とらえどころのない混沌とした力の解放のどちらにも魅力を感じていたのではないのでしょうか。

●ギリシア悲劇は教義を教えない

ただ若いというだけで幸せを感じられた時代が過ぎ去り、大人になって家庭や職場で責任を担いつつ、より深い人間関係を切り結ぶようになると、打ちのめされそうになる試練にも遭遇するでしょう。人生の苦勞を背負うことの多くなった世代にこそ、ギリシア悲劇は語りかけるものかもしれません。古典学者のノックスは「（家族は）時に重荷となり、時に支えとなって私たちの内にある。家族の憎悪と愛、団結と不和が西洋文学のエネルギの源となっていることは間違いない」と言います。ギリシア悲劇は「復讐してはいけない」とか「救し

なさい」という教義は教えません。傲り高ぶる人間の行く末、人間的であてにならない神々に翻弄され、道を見失いながらも進もうとする人々、どうしても救わずに殺してしまつた人間の苦悶、復讐しても結局は悪の連鎖を断ち切れなかった人間の嘆きを描きます。その姿が私たちの心に触れるのだと思います。トロイア王妃は、神の手がトロイアを滅ぼさなかつたなら、「私たちは暗闇に消え失せていただろう。私たちの物語は歌われることもなく、後代の人々に歌い継がれることもなく。」（エウリピデス『トロイアの女たち』）という言葉を残します。二千五百年後の日本で、その物語がまだ読み継がれているということは、エウリピデス自身、夢にも思わなかつたことでしょう。

●最終学歴

プリンマー大学大学院
古典ギリシア語学科修士課程修了

●研究・演習のテーマ

英国エリザベス朝および近現代演劇とギリシア悲劇を研究している。

ゼミでは、シェイクスピアの作品を精読し、言葉のイメージや作品に描かれたテーマを様々な視点から考察すると共に、翻訳書を通してシェイクスピアの人間観、世界観を大まかにつかむことに重点を置いている。

『明日の友』（婦人之友社）に「シェイクスピア劇の人間たち」を連載。

敬和祭

みんな一緒に盛り上がった「第十六回敬和祭」



敬和祭実行委員長
菊池 美樹

去る十月二十一、二十二日の二日間、第十六回敬和祭「Genuine」本物の知性、本物の遊び」を開催しました。私は一年生の時から敬和祭実行委員としてがんばってきました。そして、今回は実行委員長として初めての敬和祭に臨み、試行錯誤の半年間でした。いたらないところも多々ありましたが、新しく入ってきたメンバーの斬新なアイデアやその熱心な働きに助けられ、なんとか無事に開催できてホッとしております。

敬和祭当日は二日間とも天候に恵まれ、多くの方々にご来場いただくことができました。今回、新しく企画したスタンプラリーや抽選会などのイベントは、私たちの予想をはるかに越えた盛況ぶりであり、半年間がんばってきた努力が実ったと内心充実感でいっぱいです。



私は他の業務もあつて観覧することができなかったのですが、今年で三回目になる恒例のミュージック・フェスティバルや、数学者で大道芸人としても有名なピーター・

フランクル氏による講演会も行われ、こちらの方にも多くの方が来てくださったと聞いています。

学生有志による屋台や展示、茶道部や陶芸部、FMラジオオサークルなどによるさまざまなイベント、学生ライブも好評で、参加される方々も、開催する側も、みんなで一緒に楽しんで、敬和祭を盛り上げてくれました。

また、敬和祭と同時に開催された国際文化学科主催の外国語スピーチ・コンテストや、入試室企画のオープンキャンパスにもたくさんの方々にご来場いただき、敬和祭をいっそう華やかなものにしていただきました。

色々と面倒をかけたものが最後までついてきてくれた実行委員会の仲間たち、サポートしてくださった先生や事務の方々、当日来場してくださった地域の皆さまや学生の皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。たくさんのおい出をありがとうございました。



敬和祭



本格的漢方ワンタン調理中！

私は、国際文化学科の二年生で富川先生のゼミに所属しています。そして、中国の料理師の免許を持っています。その腕前を皆さんに披露しようと、今年の敬和祭では漢方ワンタンの屋台を出して、大成功しました。

私が今回、屋台を出す目的は三つありました。一つ目は、皆さんに本格的な中華料理の美味しさを伝えたかったからです。二つ目は、自分の実力を試してみたかったからです。三つ目は屋台を出すことで人々と交流したかったからです。

私たちは敬和祭の始まる前日の十月二十日から、本格的な準備を開始しました。アルバイトを終えてから、スーパーへ行って、



漢方ワンタン、大成功
国際文化学科二年
郭 琦

材料の一部を買いました。翌二十一日の朝は別のスーパーへ行って、足りない材料を買いました。

一日目は、敬和祭の屋台に初参加ということもあり、事前の計画が不足していたため、あまりうまくいきませんでした。そのため、一日目終了後、ゼミのみんなを集めて、二日目のやり方について話し合いました。その結果、業務を細かく分担することに決定しました。そして、敬和祭二日目の二十二日の朝から、「ワンタンの手作り」、「漢方スープづくり」、「来場者への宣伝・販売」の三つに分かれて作業をしました。忙しくはありましたが、前日より順調に進みました。そして、午後一時半ぐらいには漢方ワンタンを完売することができ、大成功に終わりました。

敬和祭の二日間で、私は小学生から近隣の社会人・お年寄りの方々まで、いろいろな方との交流ができました。また、私たちが中国の健康的で美味しい料理の作り方を多くの人々に伝えることができたことは、お金儲けよりもっと大切なことだと感じました。本格的な中華料理が日本の家庭料理に広まるように、これからもがんばろうと思います。

チャンスがあれば私たちは、もっと多くの人々と交流したい、中華料理を伝えることを架け橋として、日中の民間友好交流を促進したいと思っています。これからも自分のできる限りの力を尽くして、がんばろうと思います。最後に、敬和祭で富川ゼミの屋台をご利用いただいた皆さまに、この誌面をお借りしてお礼申し上げます。



第三回ミュージック・フェスティバル
母校のステージ
一九九四年度卒業
田部 真奈美

あの頃なかった母校の「体育館」で、三たび招かれて演奏するご縁。「シティブラス越後」の一演奏者としては常に真剣だが、やはり母校のステージはチョット特別なのである。大きくなったニュートンの林檎の木、懐かしい教室；、どれも母校で「今の自分」が演奏するから感じられることだ。伝統と開拓スピリット溢れる実行委員会の皆さん、楽しそうにバンド演奏や模擬店をやっている現役学生！今も昔も変わらない敬和祭の姿を確かに感じることもできた。

十数年経ってもいまだ美しい校舎に心から感激したことを一つ付け加えて、敬和祭に関わったすべての方に感謝したい。ではまた、来年。



シティブラス越後のみなさんによる力強い演奏



第二回外国語スピーチ・コンテスト
忘れられない日
新潟県立中条高等学校二年
柳川 雅美

私は二〇〇六年十月二十二日が一生忘れられません。その日、私は不安と楽しさを共に味わいました。

私は日本に来たばかりのころ、生活にも勉強にも色々な困難があり、色々な思いがありました。でも誰にも言いませんでした。ずっと自分の気持ちを隠していました。ところが、このスピーチ・コンテストは、私にチャンスを与えてくれました。コンテスト前に、高校の先生方と一緒に何回も練習をしました。本番はすくく緊張しました。それでも、私は演台の上で、本当に自分の話したいことを話しました。その時の気持ちは一等賞よりもうれしいものでした。

私は日本語の勉強をもっとがんばります。敬和学園大学に心から感謝いたします。



中学生から社会人まで多くの方が参加

みんなの心に充足感
ふれあいボランティアのレポート

敬和ふれあいバラエティは、ボランティア実習でお世話になった福祉施設の方々に大学に招待するイベントです。今年度もバーム館（体育館）を会場に、六施設七十九名のお客様をお迎えして開催しました。参加した学生は五十一名。学年や学科、友人関係をこえて集まった学生たちが懸命にとりくむ姿を見ると、このイベントの開催意義を強く感じます。しかし、学生の企画・対応は、「招待」と呼べるほど完成度の高いものではないかもしれません。お客様はこちら側が学生であることを充分承知してください、不足する部分も大目に見てくださっているように感じます。

この取り組みが多くの人々の理解と協力によって成り立っていることを決して忘れたい、イベントを終えたあとの充足感とともにそのことを確認したいと思います。

（ボランティア委員会 池田）



会場がたくさんの笑顔であふれました

社会福祉士について

学生と共に学びたい

「社会福祉士」とは、社会福祉の分野で相談援助を行う専門職です。敬和学園大学の共生社会学科は、その受験資格が得られる学科です。その国家試験は、合格率が三十%弱というたいへん難しい資格です。ですから大学四年間で、社会福祉の専門知識・技術をしっかりと学ばねばなりません。

しかし、「社会福祉士」という対人援助の専門職をめざす学生に、それ以上に身につけてほしいと願うことがあります。それは、自立した市民（社会人）であることです。

今日の福祉は「自立支援」が重視され、「社会福祉士」も自立支援の視点を大切にした対人援助が求められます。そのためには、援助者自身が自立した市民になる努力が不可欠です。それは、福祉の対人援助においては、「自分のことは横において」という傍観者の立場は許されなからずです。それが、ひとにかかわる、ひとの生活や人生にかかわる仕事の厳しさといえます。

では、対人援助の専門職をめざす学生に身につけてほしいという「自立した市民であること」とはどういうことでしょうか。自立とは、もちろん自分の足でしっかりと立つこと。自分で決めて自分で実行することが出来る「力」があるということです。しかしそれだけではなく、自分の隣の人と手をつなげることも。人とつながる「力」があることが、自立のもうひとつの側面として大切な気がします。

それをめざして学生とかがわってきまし



英文化コミュニケーション学科 三年 松本 藍

ふれあひ、ふれあひ

私は今回初めて参加したのですが、まず、準備のやり方に驚きました。全員で行うミニゲームはほんの数回しかなく、作業は個人がそれぞれ責任をもって、空いた時間などに行いました。最初はこんな調子で間に合うかと思っていました。しかし、メンバーひとりひとりが責任感の強い人たちばかりで、それぞれしっかりと準備を行っていました。そのおかげで当日は大成功でした。

私は大峰寮という障害者施設の方々に担当させていただき、一緒にゲームをしたり、準備しておいた屋台を一緒にまわったりして過ごしました。最初は話しかけても相槌をうってくれるだけだったのですが、一緒に遊んでいるうちに打ち解けていった気がします。中でも、お互いの名前を呼び合うというのが一番大切だったと思います。私たちがひとりひとりを認識し、相手にも自分をわかってもらえる、思ってもらえることが大切だと思いました。

大峰寮の方々が帰る時には、ひとりひとりと握手をして別れました。「楽しかったよ、ありがとう。」私はこの言葉の重みを感じる事ができ、本当に参加してよかったと思えました。帰りの車の中から、ずっと笑顔で手を振っていてくれたみなさんに、私も心から感謝の気持ちを伝えたいです。「ありがとうございました」



難関突破に向け、授業以外でもがんばっています

だが、それは決して大きなことではなく、とつても些細なとりくみです。たとえば、人とのつながりを大切にすると、「あいさつくらいはしよう」「名前を呼ばれたら、相手に聞こえるような声で返事くらいはしよう」ということです。自分で決めて実行することができるためには、約束を守るということが必要です。その約束も大きなことではなく、「遅刻をしない」「提出期限を守る」という基本的なこと。これらは「人を援助する力にはならない」と強く思うからです。そういう思いで、これからの学生と共に学んでいきたいと思っています。

（共生社会学科 青山）



英文化コミュニケーション学科 三年 並木 和也

ふくらむ笑顔

私は、今回で二回目のふれあいバラエティでした。去年はじめて参加したときは、準備不足や連絡が行き届かずにあたふたしてしまう場面がよくありました。しかし、今年のふれあいバラエティは前回よりも作業をスムーズに進めることができたので、全体的に余裕を持って当日を迎えられ、よかったと思っています。

当日、私は仮装をしてバルーンアートをつくるという担当でした。たくさんの方に私のバルーンアートを見ていただけるよう、まず全てのテーブルに一つ一つ違うものをつくり、置いておくことでバルーンアートを知ってもらおうと工夫しました。結果、あちこちのテーブルから「うさぎをつくって」「くまをつくって」など、多くの方に話しかけられて、私はうれしくなって、バルーンがなくなるまでつくり続けました。途中、何度も失敗してバルーンを割ってしまいました。驚くというよりも笑われることの方が多く、かえって笑顔がたくさん見られてよかったです。

私は来年もふれあいバラエティに参加するつもりです。今回、確かにたくさんの人たちとふれあいましたが、それはほんの一瞬のふれあいばかりで、バルーンを渡したらそこで終わりでした。来年はもっと腕を磨いて、来てくださった人ともっともっと、一緒に楽しみたいと考えています。

社会福祉士を目指して

共生社会学科三年 柄澤 仁美



私は将来、高齢者福祉の現場で、社会福祉士として働きたいと思っています。そのきっかけは、祖母のことでした。中学のころは、一緒に暮らしていても、祖母の生活のことなど考えたこともありませんでした。しかし、祖母も高齢ということもあり、次第に身体のことや心配になってきました。それと同時に、祖母の存在をありがたく感じ、お陰で生活ができていたと思うようになりました。このようなことから、祖母に将来恩返しをしたいと思い、また祖母のような人生の大先輩の方々のためにできることはないかと思い、この道を選びました。

実習も特別養護老人ホームでさせていただいています。実習を通して、介護者中心でなく利用者主体の援助の中で、利用者の方が過ごしやすく、ご自分の意見が反映されるような生活を送っていただくことは、とても大切なことだと学びました。これは、利用者の方のお気持ちを理解していかないといけないことだと思いましたが、実際はコミュニケーションが上手くとれず悩み、気持ちを理解することの難しさを実感しました。後期実習では、難しいと感じたコミュニケーション課題を達成できるように努めたいと思います。今はまだ未熟ですが、ゆくゆくは社会福祉士として、利用者の方に快適な生活を送っていただけるよう、お手伝いができればと思っています。

全学的に学生をサポート
学生の心のケアについて

敬和学園大学では、学生が円滑な学生生活を送ることができるように、様々な面からケアを行える体制を整えています。

学生生活に関わる心配ごとや悩みごとについては、各教員がそれぞれ三十人前後の学生を担当し、四年間にわたって個別に対応するアドヴァイザー制度を設けています。主に精神生活面でぶつかった問題に対しては、カウンセラーとともに自主的に取り組み、解決していく場所としてカウンセリングルームを設け、毎週月・火曜日の午後、専門のカウンセラーが相談に応じています。また、事務局からは、授業の欠席状況や、病気や障害があり授業の履修に困難が生じる学生の調査を定期的に行っています。このように、できる限り学生とのつながりを保ち、アドヴァイザー教員、カウンセラー、事務局職員で連携をとり、学生のケアにあたっています。(学生部長 久島)



事務室窓口でも学生の相談に応じています

カウンセリングルームの窓辺から



カウンセラー
今成 京子

一九九七年のカウンセリングルーム設置から担当させていただき、早十年目になりました。何かなければ訪れない場所ですので、ご存じない学生さんも多いでしょうし、実際相談することに抵抗感があり、なかなか足が向かないのが現実でしょう。しかし、ここ十年間をみると在籍学生の約三〇・四〇の方が相談にいられています。学生相談がよく機能しているといわれる大学で五〇％という結果をみると、限られた時間枠の中で、相談に訪れる方が案外多いことに気がつきます。また、相談内容を見ると、人とうまく話せない、友達がいらないといった対人関係の問題が大半を占めています。学業や進路、不登校、ひきこもり、性格や心身の悩み、ストーカーなど多様化しています。

こうした悩みの背景には、幼児期から取り残してきた発達課題や親子関係のやり直し、育ち直しをしなければならぬ場合も多々あります。しかし心配な学生さんほど、ご家族に打ち明けられず、孤独感、無力感に落ち込んでいることが多いこともわかってきました。そうした方の心の援助を心がけておりますが、ご家族の代わりにはならない限界も感じています。まだまだ学生時代は親御さんの暖かな配慮や言葉かけを求めています。どうぞお子さまを温かく見守り、自立するための援助をしていただきたいと思います。

企業と連携した就職への取り組み
企業との就職懇談会のご報告

十一月十五日に「企業との就職懇談会」をホテル新潟で開催しました。採用状況を反映し、昨年を大幅に上回る八十一社・施設、百三名の採用担当者の皆さまにご臨席いただきました。雷鳴とどろく荒天のなか、多くの方々にご出席をいただき、企業の皆さまにあらためて感謝いたします。

第一部では「近頃の学生気質と本学の就職支援体制について」と題し、桑原ヒサ子就職委員長が、最近の学生の様子や本学の就職に対する取り組みについて説明をさせていただきますました。企業の方々からは、「近頃の学生の本質を理解できて大変よかった」「採用するものと逆の視点からの話が聞けて参考になった」とのご感想をいただいております。

第二部では、企業の採用担当者と本学教職員との懇談の場を設けました。懇談の合



最近の学生気質を紹介



企業の方のアドバイスを真剣に聴く学生

間には、本学チアリーダー部十二名によるダンスがあり、普段の練習の成果を披露することができました。演技後には、さっそくチアリーダー部の学生に、企業の方から採用についてのお誘いをいただきました。

また当日は、就職活動を始めたばかりの三年生六名に受け付けの手伝いをお願いしました。秘書技能検定講座で学習した知識を活用し、明るく元気に応対していました。第二部の懇談会にも参加し、採用担当者の皆さまから就職活動についてのアドバイスをいただき、今後の就職活動にかさそうと熱心に耳を傾けていました。

毎年開催しておりますこの懇談会は、後援会の全面的な協力により開催させていただいていることを申し添えさせていただきますとともに、心から御礼申し上げます。

(就職委員会)

敬和の教育を理解
一・二年生保護者懇談会

去る十一月十一日、七十五名の保護者の皆さまを本学にお迎えし、「一・二年生保護者との懇談会」を開催いたしました。

第一部では本学の教育内容等について、新井明学長と上野恵美子教務部長が「敬和学園大学の教育」と題して、ご説明させていただきました。

引き続き行われた第二部は、立食の懇談会形式で、保護者の皆さまと平日頃アドヴァイザーとしてお子さまと接している本学教員との間で、学業成績や今後の学生生活などについて有意義な意見交換を行うことができました。

皆さまからいただきましたご意見は今後の参考とさせていただきますと共に、貴重な時間を過ごさせていただきましたことに、深く感謝いたします。(教務委員会)



新井学長を交えての楽しい懇談会

サークル紹介 チアリーダー部
心に元氣パワー!!
共生社会学科三年
坂井 万里央



私たちは現在、一〜三年生の十二人で活動しています。チアリーダーというと、リフトやアクロバット演技を想像される方が多いと思いますが、私たちの部では、ポンポンを持ち、音楽にあわせて踊る「チアダンス」を主とした活動を行っています。ほとんどが初心者ですが、みんなダンスが大好きで、楽しみながらも真剣に練習しています。最近では、ふれあいバラエティや企業との懇談会など発表の場も増えてきました。難しい演技はできませんが、笑顔と明るさでしたら誰にも負けません！自分たちが楽しむだけでなく、一人でも多くの人の心に元氣なパワーを与えられるように、私たちは、今日も踊り続けています。



「企業との就職懇談会」でも明るい笑顔で演技

多彩な学びを地域に還元 二〇〇六年度 オープン・カレッジ、公開講座のご報告

二〇〇六年度の敬和学園大学オープン・カレッジ、公開学術講演会は、すべて終了いたしました。振り返ってみますと、年間を通じて、大学・各学科・研究所がそれぞれに工夫をこらし、リベラルアーツを基盤にした多彩な分野・テーマで、地域の皆さまのご期待に沿えるよう努力していることがご理解いただけるのではないのでしょうか。

四月の新生歓迎公開学術講演会（講師 フェリス女学院大学名誉教授 小塩トシ子先生）を皮切りに、六月初旬には『グリックの冒険』などの著書で知られる児童文学者の斎藤惇夫先生をお迎えして、氏がこよなく愛するイギリスの児童文学作品『たのしい川べ』を二日間にわたり、存分に味わいました。（第四十七号に掲載）

この集中講座の後、六月中旬に、「フア



学生代表から日野原重明先生へ花束（12月9日）

ンタジー 大人が読む児童文学』（全六回）というテーマで新発田市オープン・カレッジを開催しました。ゲスト・スピーカーとして新潟大学名誉教授の斎藤文一先生に『銀河鉄道の夜』についてお話しいただき、『指輪物語』、『ナルニア国物語』、『海底二万マイル』、『はてしない物語』、『ゲド戦記』など、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカのファンタジー文学については本学教員が講師を務めました。

七月には二つの講演会・シンポジウムが行われました。一つは本学人文社会科学研究所主催の「共生の時代の教育—リベラルアーツの可能性—」で、富士ゼロックス株式会社相談役最高顧問、国際大学理事長の小林陽太郎氏をお迎えし、講演とシンポジウム（鈴木聖二 新潟日報社編集委員、鈴木佳秀 新潟大学教授、山田耕太 本学教授）を行いました。もう一つは英語文化コミュニケーション学科学科恒例の英語教員対象「リフレッシュ・セミナー」で、NHKテレビの語学番組でおなじみの慶應義塾大学の田中茂範先生による基調講演と、小・中・高・大学の現場教員によるシンポジウムを催しました。（第四十八号に掲載）

十月には国際文化学科が外国語スピーチ・コンテストを、また、共生社会科学は公開学術講演会を行いました。本講演会では、国立社会保障・人口問題研究所所長の京極高宣先生に「社会保障と日本経済」と題し、社会福祉が実は経済の下支えをしていると

英語の楽しさを知る 高校生向けイングリッシュセミナー

日本人英語学習者の中には英語を学ぶ意味を考える人が少なくないと思います。自分とは異なる文化を持つ人々とコミュニケーションをとりたい、英語の映画や音楽を理解したい、留学したい、あるいは英語で話すが「カッコいい」から、など様々な理由があることでしょう。高校生にとって、入試に合格することが、取りあえずの現実的な理由となっていると思います。どの理由も大切です。しかし、時に英語学習が真面目に取り組むべき課題となってしまうと、英語を学ぶ楽しさが忘れられてしまっているように感じることもあります。

そこで、英語学習の「楽しさ」を知ってもらうために、本学では高校生対象に大学で英語のセミナーを開催してきました。参加者は「楽しい文法の復習」、「クリエ



コミュニケーションから英語の楽しさを学びます

ティブ・ライティング」などのワークショップに、小さなグループに分かれて参加します。そこでは、普段より少し想像力を豊かにして、とにかく英語を使って活動をするのが求められるのです。それぞれに異なった学習スタイルや英語力の生徒でも、一緒に活動に参加したり、協同的な作業を通して英語を学んだりすることができます。

このようなワークショップを企画するのは、本学英語プログラムの教員ですが、在学生にもこのようなセミナーでアシスタントになることをお願いしています。アシスタントの学生たちのおかげで、フレンドリーな雰囲気を作られ、高校生たちはくつろいだ気分での授業に参加できます。高校生は、大学生が教員と気さくに英語で話す姿を見て、英語を使うことに積極的になります。そういう点で、大学生は彼らのよい模範であると言えるでしょう。

セミナーはすべて英語で行われるため、初めのうち参加者は戸惑ったり、不安な様子ですが、すぐにニコニコし始め、すべて英語でなんとかやっつけていこうとします。長かった一日の終わりの閉会式で見られる、彼らの生き生きとした表情はうれしいものです。参加者からは、「英語を楽しむながら学ぶことができ、英語ってこんなに楽しいんだと思いました」などの声が寄せられています。このようなセミナーをおして、他の人々とコミュニケーションをとり合うことが英語学習の一つの目的であり、英語を学ぶことは楽しいことだということを感じてもらえるよう願っています。（英語文化コミュニケーション学科 ウィリアムズ）



京極高宣先生（右）と新井学長（10月28日）

という、社会保障の社会的効果を中心に話していただきました。

そして、十二月九日の日野原重明先生（聖路加国際病院理事長）の講演会は二〇〇六年最後を飾るにふさわしいものでした。活力に満ち、ユーモアたっぷりのお話のうちに、「欲望は外のもので、希望は内に持つもの、希望というのは心の中に抱く祈りのようなもの」、「もっともっと欲しいという欲望ではなくて、人に希望を与えることで私たちが自然に豊かになるのです」など、まわりの人々の幸せに心をくだきながら常に前を向いて歩いて歩んでおられる先生の一言一言に感動し、また励まされました。参加者全員への「ことばの贈りもの」という素晴らしいクリスマス・プレゼントとなりました。

これらを含めた今年度の講演会には、のべ千七百名以上という多数のご参加をいただきました。あらためてお礼申し上げます。（広報委員長 松崎）

二〇〇七年度 入試日程案内

二〇〇七年度推薦入試が、十一月十八日（土）に実施され、指定校推薦Ⅰ・Ⅱ、公募推薦、社会人を合わせて九十七名が受験しました。この推薦入試については厳正な審議の結果、合格が判定されました。また、AO入試も順調に進んでおり、これまでに合計百十六名の合格が決まっています。

これから一般入試が実施されます。皆さまのお知り合いに大学進学を考えている方がいらつしやいましたら、ぜひ敬和学園大学をお勧めいただき、お気軽に入試室までご連絡いただきますようお願い申し上げます。（入試委員会・入試室）

2007年度入試日程

入試区分	出願期間	試験日	試験会場	選抜方法
AOⅠ	6月1日(木)～3月30日(金)	随時設定	本学	面接(2回) 出願書類
AOⅡ	6月19日(月)～3月30日(金)		本学	面接(1回) 出願書類
A日程	1月4日(木)～1月23日(火)	1月28日(日)	本学、新潟、長岡、上越、鶴岡、会津若松	英語、国語 調査書
B日程	1月4日(木)～1月30日(火)	2月4日(日)	本学、新潟	英語、国語(1科目)、 調査書
C日程	2月12日(月)～3月8日(木)	3月13日(火)	本学	面接(あらかじり調整が与えられます) 調査書
センター	1月4日(木)～2月2日(金)	1月20日(土) 21日(日)		英語、他1科目 (全科目が選択) 調査書
	2月12日(月)～2月27日(火)			
	3月1日(木)～3月22日(木)			

*AOⅠは面接型、AOⅡはオープンキャンパス参加型

入学試験等に関するお問合せは、本学入試室（☎0110-116-1117）までお願いいたします。

キャンパス日誌

- 10月
 - 4日 教授会
 - 6日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑫
 - 説教 延原時行 宗教部長 「枯れた骨の復活」
 - 講話 大谷貴子 全国骨髓バンク推進連絡協議会会長 「白血病を克服して」(写真)
 - 10日 村上桜ヶ丘高校大学見学会(30名)
 - 12日 小千谷西高校大学見学会(42名)
 - 三条市オープン・カレッジ①(41名)
 - 講師 富川尚 助教授 「ヨーロッパ人を創ることができるか」
 - 13日 教養リフレッシュ・リトリート
 - 映画「マザー・テレサ」上映会
 - 17日 聖籠町オープン・カレッジ①(35名)
 - 講師 マーク・フランク 講師 「食育でつくる健康な心とからだ」
 - 18日 まちカフェ 会場 新発田市まちの駅
 - (～11月15日、毎週月・水 全10回)
 - 19日 三条市オープン・カレッジ②(36名)
 - 講師 趙晤衍 助教授 「東洋思想から学ぶ現代社会における『共生』」
 - 20日 ふれあいバラエティ
 - 21日 第16回敬和祭 (～22日)
 - 22日 オープンキャンパス(63名)(写真)
 - 外国語スピーチ・コンテスト
 - 24日 聖籠町オープン・カレッジ②(25名)
 - 講師 前嶋和弘 助教授 「教育から見たアメリカ」
 - 26日 三条市オープン・カレッジ③(37名)
 - 講師 松本ますみ 教授 「知られざる歴史」
 - 27日 関根学園高校大学見学会・模擬授業(13名)
 - チャペル・アッセンブリー・アワー⑬
 - 説教 カトリック新発田教会 石黒晃泰 神父 「私のあばら骨」
 - 講話 童話作家 高村たかし 先生 「絵本の魅力」
 - 資格取得奨励奨学金授与式
 - 28日 共生社会科学公開学術講演会
 - 講師 京極高直 国立社会保障・人口問題研究所長 「社会保障と日本経済」
 - (新発田市生涯学習センター、72名)
 - 31日 聖籠町オープン・カレッジ③(26名)
 - 講師 伊藤敦美 講師 「体験をとおして学ぶ」
 - 豊栄地区オープン・カレッジ①(34名)
 - 講師 杉村使乃 助教授 「指輪物語」
- 11月
 - 1日 教授会
 - 2日 三条市オープン・カレッジ④(32名)
 - 講師 前嶋和弘 助教授 「多様な人種と政治」
 - 6日 外国人留学生(海外指定校)入試

- 7日 聖籠町オープン・カレッジ④(22名)
 - 講師 山田耕太 教授 「はじめて学ぶ教育基本法」
- 豊栄地区オープン・カレッジ②(24名)
 - 講師 金山愛子 助教授 「ナルニア国物語」
- 10日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑭
 - 説教 柏崎伝道所 臼田宣弘 牧師 「偽預言者を警戒しなさい」
 - 講話 ドイツ人画家 アンティエ・グメルス 先生(写真) 「アーティストから見たドイツと日本」
- 11日 1・2年保護者との懇談会(大学、75名)
- 14日 豊栄地区オープン・カレッジ③(33名)
 - 講師 松崎洋子 教授 「ゲド戦記」
- 企業との就職懇談会(ホテル新潟、81社103名)
- 17日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑮
 - 説教 豊栄キリスト教会 近伸之 牧師 「真珠を捜すように」
 - 講話 宮川洋 就職指導室長 「ビジネス環境の変化」
- 18日 推薦入試
- 19日 イングリッシュ・セミナー(新津高校85名)
- 20日 社会福祉現場実習2(～12/2)
- 22日 中条高校大学見学会・模擬講義(45名)
- 教授会
- 24日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑯
 - 説教 矢嶋直規 助教授 「天地創造と人権」
 - 講話 伊原敦子 聖BERNARD新教修道院長(写真) 「“辺境”の山岳聖地に祈る」
- 29日 新発田学研究センター開所式
- 30日 理事会
- 12月
 - 1日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑰
 - 説教 船本弘毅 前東洋英和女学院院長 「今の時を生きる」
 - 講話 一戸信哉 助教授 「“活力”のための“情報技術”」
 - クリスマス・ツリー点灯式(写真)
 - 2日 大学・高校合同クリスマス研修会
 - 6日 教授会
 - 8日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑱
 - 説教 山田耕太 教授 「真理と平和を希求する人間」
 - 講話 映画監督 前田憲二 先生 「日本とは？」
 - 9日 敬和学園大学オープン・カレッジ
 - 講師 日野原重明 聖路加国際病院理事長 「生きる上での希望と欲望～生きかた上手」(新発田市民文化会館、943名)
 - 15日 チャペル・アッセンブリー・アワー⑲
 - 説教 金山愛子 助教授 「クリスマスを迎えて」
 - 講話 長岡成夫 新潟大学教育人間科学部教授 「患者の自己決定」
 - 22日 クリスマス行事(写真)
 - 23日 冬期休暇(～1/5)
 - 29日 冬期特別休業(～1/4)



開所式でのテープカット

敬和学園大学は新発田商工会議所とともに、新潟県及び新発田市よりご支援・ご協力をいただき、「高齢者・障害者に優しい街づくり」を目指し、学生と高齢者等の交流を図るとともに、商店街の機能強化とコミュニティ機能の回復を目的として、『まちの駅よろず「新発田学研究センター」』を、十一月二十九日に開設いたしました。

産学官連携事業である「新発田学研究センター」の主な活動は、①商店街活性化事業、②研究事業、③教育事業であり、それらを有機的に関連づけながら実行していく予定です。また、今年度は、開設関連事業とともに、毎週木曜日に行う「高齢者との昼食会」や地元新発田の貴重資料の収集等に力を注いでいきますので、ご協力をお願いいたします。(新発田学研究センター)

街中交流拠点
新発田学研究センター開設



同窓会リレー・エッセイ①
卒業して今

一九九四年卒業同窓会長
米山 光紀

今号より、同窓会のスペースをいただきました。毎回、卒業生による「近況や大学時代の経験等」について、リレー形式で綴っていきたくと思います。まずは、同窓会長の私が、一番手に「指名いただきました」。

私は一期生ですので、卒業して十三年になります。今も同窓会長という形で大学との関わりがあり、敬和学園大学について考えることが少し多いので、その辺について触れたいと思います。

卒業するまでの大学は「学ぶところ」であり「集うところ」でありました。自由な校風の中でたくさんの経験と思い出があり、今に生きています。卒業して振り返ると、大学は当たり前のように存在する「母校」「出身校」「私の最終学歴」であります。

しかし、一般企業に就職して振り返ったとき、大学は当たり前存在しているのではなく、たゆまぬ経営努力によって継続されている所であることに気付きました。多くの学生を集め、社会に必要とされる教育を行わなければ、なくなってしまう存在でした。そこに気付いたとき、我々卒業生が母校繁栄のためにできることは、敬和学園大学の卒業生である私たちが社会で活躍すること、そして母校へ金銭的な貢献をすることなのでしょう。

このリレー寄稿が長く続くことを願って閉じたいと思います。

学事予告

- ◆ 1月
 - 十日 卒業論文提出締切
 - 十六日 補講日(二十一日まで)
 - 二十日 後期講義終了
 - 二十三日 後期末試験(二月三日まで)
 - 二十八日 一般(A日程)入学試験
- ◆ 2月
 - 四日 春期休暇(三月三十一日まで)
 - 五日 一般(B日程)、外国人(二期)、編入(二期)、社会人(二期)入学試験
 - 後期集中講義期間(九日まで)
 - 社会福祉現場実習2報告会
 - 後期末追試験(十六日まで)
 - 学内合同企業説明会
 - 十六日 再試験(二十八日まで)
 - 二十七日
- ◆ 3月
 - 一日 蔵書点検(二十一日まで)
 - 一般(C日程)、外国人(二期)、編入(三期)、社会人(三期)入学試験
 - 二十日 卒業式・卒業謝恩会
 - 二十一日 新発田学研究センター講演会
 - 三十一日 学年終わり
- ◆ 寄付者ご芳名
 - 一般 肥田野 秀司、村松 信雄
 - 日本基督教団新潟教会 婦人会
 - 新潟YWCA
 - 敬和学園大学 後援会
 - 新井 明 3
 - 皆川 靖
 - 長谷川 政和
 - 鶴田 陽子
 - 長田 真人
 - 二〇〇二組